

施設めぐり

教育研究所

TEL 235-7591



旧古谷東小学校にある同研究所。ここでは、教育に関する調査・研究や、児童生徒の学力や体力を向上させるため、教職員の研修を行います。研修の分野は、教科指導、生徒指導、学校保健、応急手当など多岐にわたります。教科ごとの研修では、理科実験の演習をしたり、地域の専門家を招いて和太鼓の実技を学んだりします。小学校の教員向けに、ウサギやニワトリの飼育を学ぶ講習会もあります。



4月から同研究所は、名称が教育センターに変わります。市民の皆さんも参加できる研修なども計画中です。小学校として使われていたときの思い出の品物などを飾るメモリアルルームなどがある一階は、一部を皆さんが活動できる場所として活用する予定です。

人権教育シリーズ

ともに生きる社会をめざして⑧

人権推進課・TEL 224-5579

このシリーズは、自立生活問題研究所長・谷口明広たぐらあきひろさんを招いて行った、人権問題講演会の要旨を人権推進課でまとめたものです。

何でもいいんですよ。「こんにちは」でもいいですし、「何かお手伝いしましょうか」でも良いのです。一番まずいのが、何も声を掛けずに行動に移すこと。これは、やめましょう。

車いすで坂道を頑張って上がっている方に、黙って後ろから急に押すと、タイヤに指が巻きついて、折れちゃう場合があります。そういうときは、必ず「押しまじょうか」とか、「押してもいいですか」と言うように、声を掛けてから押してあげてください。声を掛けてくだされば、手を放しますから、絶対に骨折することはありませ

ません。触れ合ってみると良く分かります。

最後に三つ目の「あい」は、学び合いです。触れ合っているだけでは、「自分はやってあげている」としか思わない人たちもたくさんいます。ボランティア活動は、いまだにやってあげること、と思っ

ている方もたくさんおられます。

しかし、ボランティアを最後までやり遂げると「自分のためになりました」と皆さんおっしゃいます。私は、そのようなことがすごく大事だと思っています。障害のある方と触れ合っても、教えることばかりとか、お世話することばかりだと思っていたのでは、何の進歩もありません。

やはり一つ教えたら、一つ教えてもらう。二つやってあげたら、二つ返してもらおう。そんなに同等でなくても良いのです。二つやってあげたら、一つを返してもらおう。このようなことがないと、人間はなかなか続いていけないものだと思います。

ですから、「教え、教えられ、助け、助けられ」ということを繰り返し返さないと、本心に障害のある方への理解には、つながらないと思います。

(つづく)



問い…国民健康保険税の納税が困難です。減免制度は、ありますか？

答え…特別な事情がある方は、減免を受けられる場合があります。

国民健康保険税は前年中の所得から算定するため、現在の生活状況が税額に反映されていません。そこで、災害により家屋や財産に損害を受けた方や、疾病による廃業・退職で前年に比べて所得が著しく減少し納付が困難になった方に、税額を減免できる場合があります。減免を受けるためには、納期限の7日前までに申請書と、り災証明書などの必要書類を添えて、国民健康保険課に提出してください。なお、減免の対象にならない方も、分割納付などの方法があります。納付が困難なときは、ご相談ください。

問い合わせ…国民健康保険課国保資格担当・TEL 224-5836

胃がん検診のススメ

バリウム検査(胃部X線撮影)を初めて受ける方から「バリウム検査って何?」との不安な声をよく聞きます。バリウム(造影剤)を飲んで、胃の形や影を撮影する検査です。

検査の手順は、①検査の前に、胃を膨らませるため、かりゆいの発泡剤を一口の水と一緒に飲みます。胃が膨らんでゲップをしたくなりますが、ぐっと我慢します。

②百五十ミリリットルぐらいのバリウムを飲みます。バリウムには甘いにおいがついていて、昔よりもずっと飲みやすくなりました。
③検査技師の指示に従い、台の上で体をあおむけやうつ伏せ、左右に回転しながら検査を行います。
④検査後は下剤を飲み、バリウムが固まる前に排便して出します。

がんは、昭和56年以降、日本人の死亡原因の第一位です。胃がん

は検診で発見されやすく、早期発見・早期治療で治る率が高くなっています。

市では、日ごろ健診を受ける機会のない40歳以上の方を対象に、胃がん検診を行っています。早期発見するために、40歳になったら、定期的に胃がん検診を受けましょう。

検診の詳細は、健康づくりリソースジュールを活用ください。

成人健診課・TEL229-4126



大気中の二酸化炭素(CO₂)などは温室効果ガスと呼ばれ、暖められた熱を宇宙へ逃がさない働きをします。もし、温室効果ガスがなければ、地球の気温は低くなり、私たちは暮らせません。しかし、温室効果ガスが増え過ぎると、大気中の熱が放出されにくくなります。これが地球温暖化です。

平成24年度の市の温室効果ガス目標排出量は、約132万7,000 t。この目標を達成するためには、家庭で1人当たり1日約1 kgの削減が必要です。その体積は、直径22cmのサッカーボール約100個分に相当します。CO₂の削減には、積み重ねと継続が大切です。例えば風呂に入るとき、シャワーを使う時間を1分間短くすると約78g、風呂の追いだきをせず続けて入る工夫で約86g削減できます。買い物するとき、往復2kmを自転車で行くと約180g、マイバックを利用すると約100g削減できます。

一つ一つは少なくとも、市民全員が協力することで、大きな効果が生まれます。CO₂排出の少ないまちの実現に向けて、私たち一人ひとりが、地球温暖化対策に取り組みましょう。

問い合わせ…環境政策課・TEL224-5866

消費生活レポート

175 結婚式場・披露宴サービ
スのトラブルにご注意!

事例

「結婚式場の予約で申込金を支払った。その後、キャンセルを申し出たが、申込金を返してもらえない」「結婚式場を挙式予定日前にキャンセルしたが、解約料が高額で納得できない」

申込金の返金や解約料に関する相談が増えていきます。契約・申し込みを急がされるケースや、仮契約と思っていたのにキャンセル時に解約料を請求されたというケースもあります。消費者へのアドバイス



- ① 契約・申し込みをするときは規約や約款をよく読み、十分説明を受けましょう。
- ② 見積もり内容の説明を受け、関係資料は必ず受け取りましょう。
- ③ 契約がいつの時点で成立するのかを確認しましょう。
- ④ トラブルが起きてしまった場合は、すぐに生活情報センターに相談しましょう。

消費生活相談

生活情報センター・市民相談室分室で行っています。詳しくは、毎月25日発行の広報川越・市民相談案内をご覧ください。

問い合わせ…生活情報センター(アトレ六階)

TEL226-7066

(相談専用・TEL226-7476)

Report